

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報 2020.2.15

No.371

羽村平和委員会発行



最大7機で編隊飛行 2月10日から14日 外来機6機が来た!



2020年2月15日(土) しんぶん 赤旗

滑走路南側に整列した7機の米空軍C-130J輸送機。10日、東京・横田基地(羽村平和委員会提供)



北関東防衛局から自治体への情報提供は、2月7日(金)の17時過ぎ。

自治体の議員には10日(月)。市民が知ったのはすでに訓練が始まった後。

情報提供の内容は、10日(月)から14日(金)まで、輸送機が最大7機で編隊飛行するというもの。

確かに、横田基地所属の輸送機とは書いていなかった。しかし、アーカンソー州リトルロック基地から輸送機C-130J-30が横田基地に来て、編隊飛行訓練するとは、書いていなかった。隠蔽ではないか。

リトルロック基地からは8日に4機の輸送機が来ており10日からの編隊飛行に参加した。なんと、11日の祝日も、地元5市1町の基地対策連絡会が飛行しないように要請したが、激しく訓練した。

12日の夜に1機、13日の夜に1機、追加で飛来した。

合計6機のリトルロック基地の輸送機C-130J-30が横田基地にやって来て、戦争が始まったかと思うような編隊飛行訓練を、低空で、夜間も、我が物顔で行った。

三沢基地にも、何度か行ったようだ。私たちに知られず、アメリカの戦争のための訓練が日本で、私たちの身近なところで行われている。

2月24日、学習会に行こう

■有機フッ素化合物を巡る 日米の動き

1950年代	PFOSやPFOAが製品として使われ始める
1990年代	野生生物や人への残留性から明らかに始める
2009年	ストックホルム条約会議でPFOSが規制対象になる
2010年	日本でPFOSの製造・輸入・使用を原則禁止に
2016年	米環境保護局が飲み水の勧告値をPFOSとPFOAの合計で1リットルあたり70ナノグラムに設定
2019年	ストックホルム条約会議でPFOAが規制対象になる 日本の厚生労働省が飲み水の目標値設定へ向け検討
2020年	日本でPFOAの製造・輸入・使用を法律で原則禁止へ(予定)

横田基地 異例の編隊飛行訓練 米本土から多数飛来

在日米軍横田基地(東京都多摩地域)で、米空軍輸送機が米本土から多数飛来し、10日から14日まで、同基地所属の機体と異例の編隊飛行訓練をしました。

情報提供では、最大7機が飛行するとしていました。横田基地の監視活動を続けている羽村市の羽村平和委員会によると、8日に米アーカンソー州リトルロック基地から4機のC-130J輸送機が横田基地に飛来したのを確認。

さらに12日午後9時半と13日午後9時すぎに1機ずつが飛来し、リトルロック基地からの輸送機は6機となりました。

10日は午後2時50分ごろ横田基地配備の4機と、リトルロックの3機のC-130J輸送機7機が滑走路南側に整列し次々に離陸。米軍が低空飛行訓練ルートを設定している関東平野上空で編隊飛行しました。

連日、関東地域での編隊飛行や横田基地上空の低空飛行で騒音をまきちらし、危険な物資投下訓練などを繰り返しました。

11日は午前9時前に、横田基地配備の2機とリトルロック基地の3機が離陸して編隊飛行。午前10時13分ごろから11時54分ごろにかけて、5機編隊で7回にわたり横田基地上空を低空で通過しながら、パラシュートで砂袋を投下しました。

最終日の14日は午前だけで、関東平野周辺で6機が編隊飛行したほか、北と西に向かってそれぞれ2機編隊で飛行する機体もあるなど、計10機が訓練しました。

防衛省北関東防衛局による周辺自治体への

情報提供では、最大7機が飛行するとしていました。

10日は午後2時50分ごろ横田基地配備の4機と、リトルロックの3機のC-130J輸送機7機が滑走路南側に整列し次々に離陸。米軍が低空飛行訓練ルートを設定している関東平野上空で編隊飛行しました。

最終日の14日は午前だけで、関東平野周辺で6機が編隊飛行したほか、北と西に向かってそれぞれ2機編隊で飛行する機体もあるなど、計10機が訓練しました。

オスプレイ操縦訓練用 施設計画

米軍横田基地

米軍は12日までに、在日米軍横田基地(福生市など東京都多摩地域)に配備の米空軍特殊作戦機CV22オスプレイのための操縦訓練用のシミュレーター施設建設について、入札可能な業者を選定するための事前募集を公示しました。同基地滑走路東側の空軍特殊作戦専用施設予定地ではすでに昨年12月から、CV22を転機する第21特殊作戦飛行隊のための駐機場の建設が始まっており、さらなる基地強化・作戦拠点化が進められようとしています。

Woolpert・KZF
10117 10117 10117



AFSOC Osprey Simulator Facility
Yokota AB, Japan

9 February 2020
©2020 Schwanitz

事前募集の公示で米軍が公表したシミュレーター施設の仕様書原案

建設業者の事前募集公示



日米共同演習で飛来した米海兵隊MV22オスプレイ=5日、北海道大演習場(米国防総省動画画像配信サービスVIDIS)

北海道で実施されてこころ、海兵隊のオスプレイ機が「凍結警告」ランフライト灯し、安全確保のため予防着陸したと説明。演習終了後、米軍基地へ帰投するため同日、千歳基地を離陸し飛行していた、わがかりました。同日は、翌日午後2時半ごろ仙台空軍基地へ帰投しました。

空軍機員やオスプレイなどに人的・物的被害はなく、民間航空機の運延などの影響もなかったとしています。演習には、普天間基地(沖縄県宮古郡西原町)に配備の2機のオスプレイが参加。千歳基地には、当初の予定から8日遅れて4日に飛来しました。

オスプレイの飛行マニュアルでは、ローターの羽根の凍結防止装置や除去装置が故障した場合、凍結するようなら可能な限り迅速に着陸する必要があります。エンジン周辺などで故障が発生した際に凍結を避ける環境から離脱するよう指示しています。

オスプレイ緊急着陸 仙台空港 凍結警告灯が点灯

国内では海兵隊と横田基地(東京都)に配備の空軍のオスプレイが、奄美空港や大分空港でエンジントラブルによる緊急着陸をしています。

訓練日程は7日午後4時20分には離陸せず、もう1機は10日緊急着陸した。仙台空軍基地に緊急着陸した。

強化・作戦拠点化ますます

「赤旗」より



世界各地の米軍基地の建設を担当する米陸軍工兵軍団の公示によると、施設の面積は845平方メートル、事業規模は10億2500万円を予定。高天井区画にCV22のシミュレーターを設置するほか、小型訓練装置区画、コンピューター室などを設けます。事前募集の応募期限は28日です。

CV22は2018年4月に横田基地に5機が初飛来。昨年7月に第21特殊作戦航空隊が発足し、24年ごろまでに配備機数10機、兵員約450人への増強を計画しています。初飛来以降、横田基地と三沢基地(青森県)、岩国基地(山口県)、東富士演習場(静岡県)などとの間を頻繁に飛行し、低空飛行や離着陸訓練を繰り返しています。

専用施設のうち格納庫や特殊作戦司令部施設など一部は、トランプ米大統領のメキシコ国境の「壁」建設に予算を回すため中止する一方で、訓練などに必要な施設は建設を進めています。